

2020年度 看取りの振り返り

この1年間で、ひさまつクリニックが関わった中で旅立たれた患者さんの振り返りを行いました。逝去された患者さんは、計40名でした。

今回特徴的だったのは、昨年度、一昨年度とも、自宅での看取り率が4割程度であったのに対して、今年は5割を超したことです。

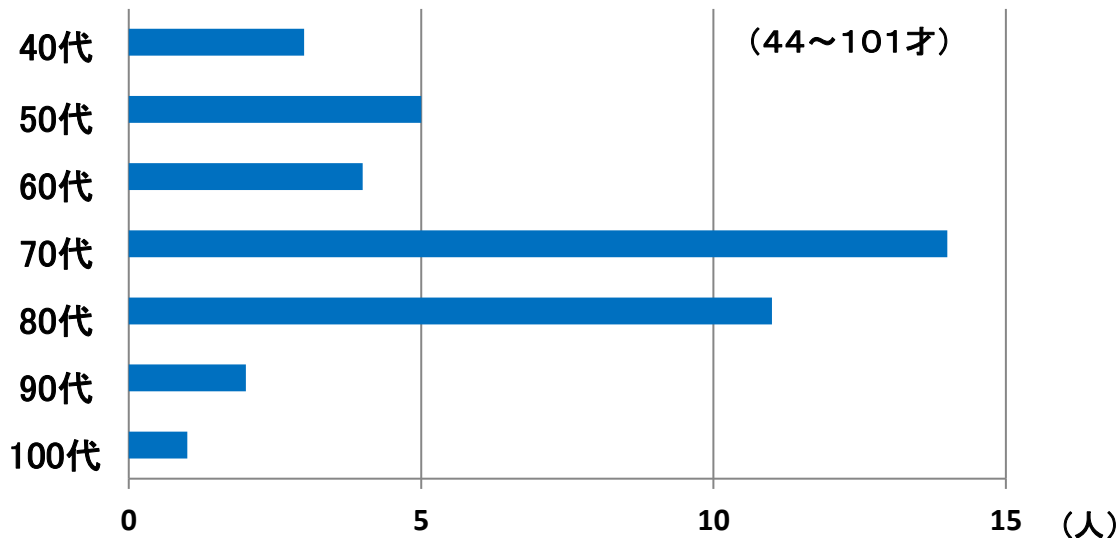
ひとつには、がん治療継続希望の患者さんが少なかったこと、もうひとつには、コロナ禍の影響があったかと思えます。

Pandemicの社会的状況を鑑みて自宅療養を強く希望される方、またこの状況であるからこそ入院を希望された方もおられます。それぞれのお考え、状況に添って対応しております。

また、訪問看護ステーションなどとの連携をより確実にするため、症例検討、勉強会などのためにオンラインプログラムも始めました。

これからも、ますます皆様のお役にたてればと考えております。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

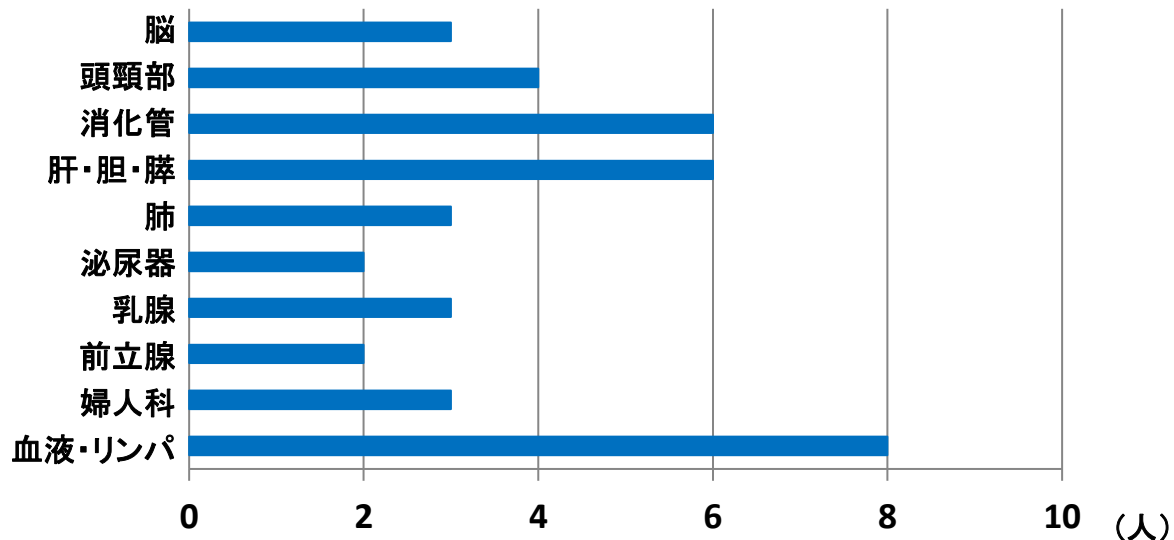
年齢



種々の年齢層の方々について
訪問診療の依頼を頂いています。
それぞれのお宅で気がかりなことは
様々であり、お一人お一人のニーズに
お応えできるよう心がけています。

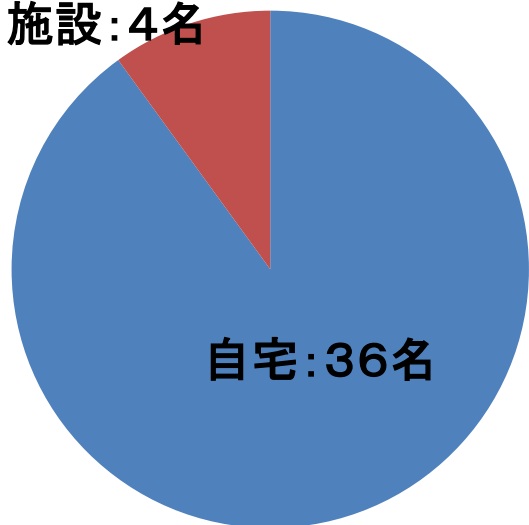
原発巣の部位に関わらず、
症状緩和治療を行っています。
必要に応じて、専門科と連携
しています。

原発巣



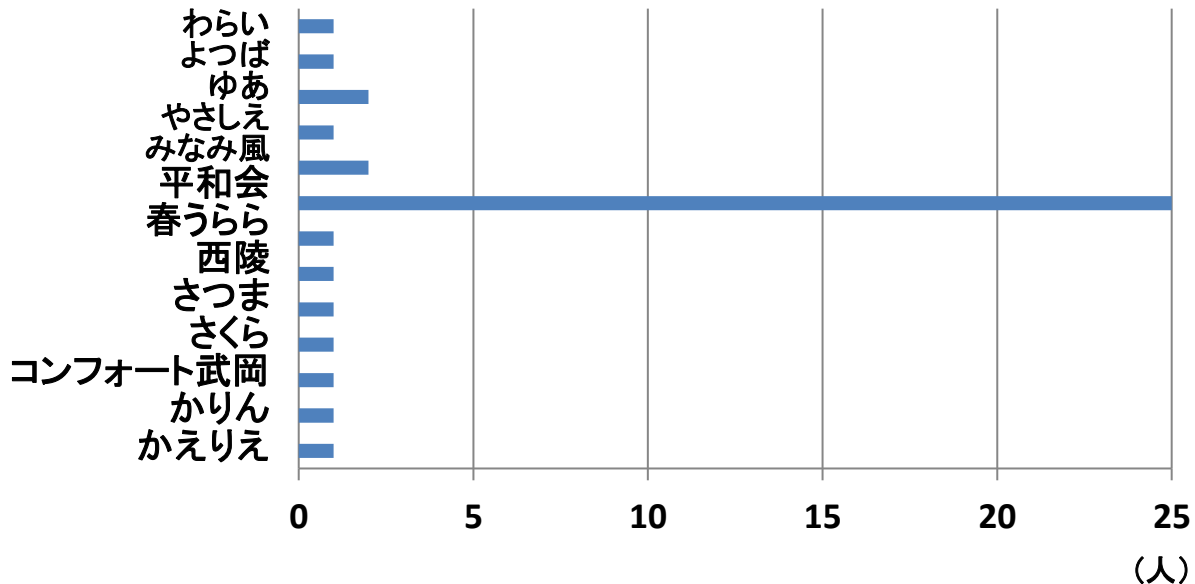
療養の場

施設: 4名

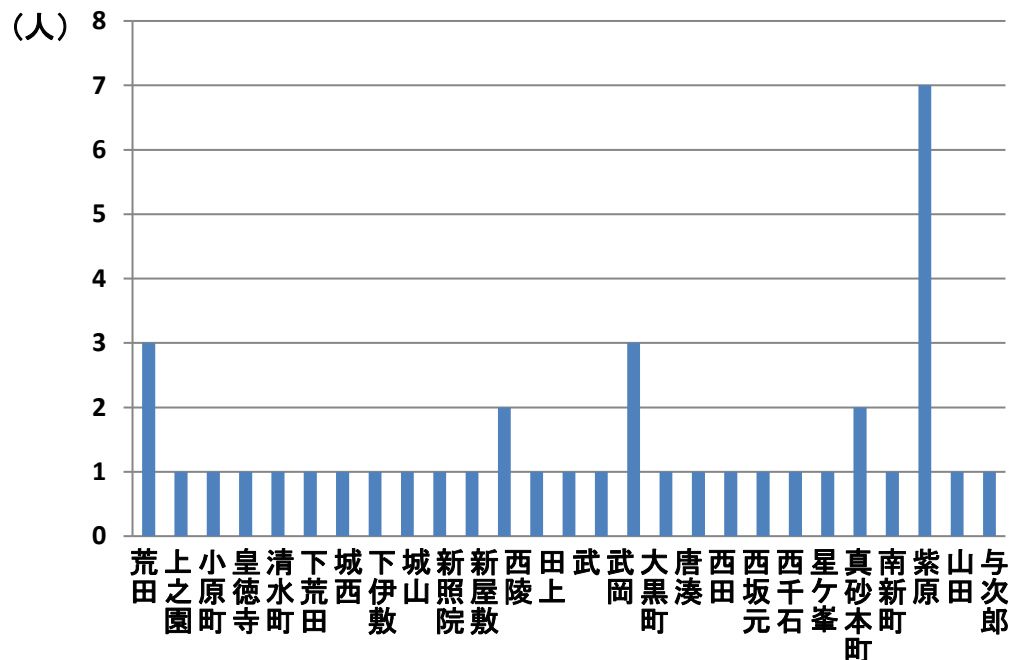


自宅: 36名

訪問看護ステーション



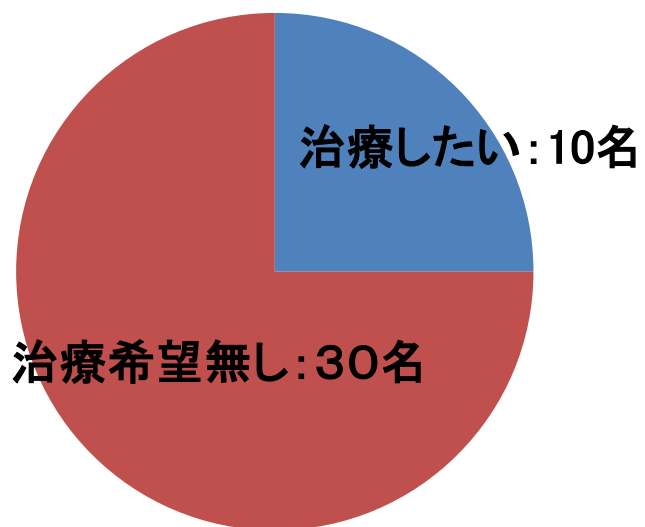
住所



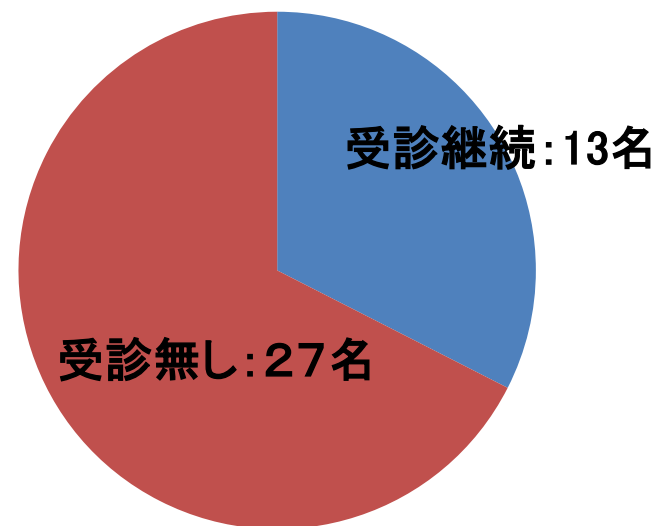
旧喜入町、旧桜島町を除く鹿児島市内の診療を行っています。
ご自宅、又は介入可能な施設に伺います。

市内の様々な訪問看護ステーションと連携しています。

がん治療希望の有無

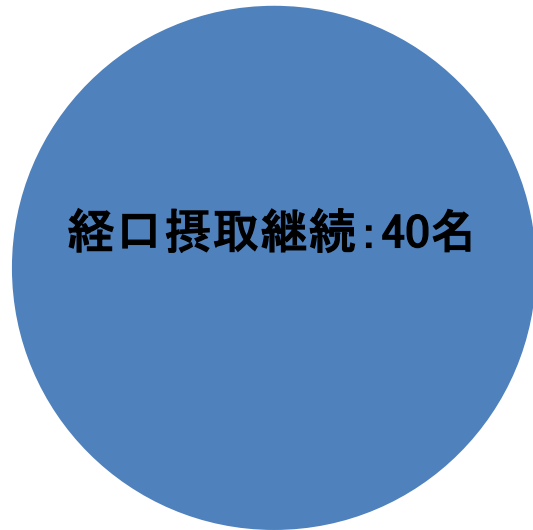


治療病院受診継続の状況

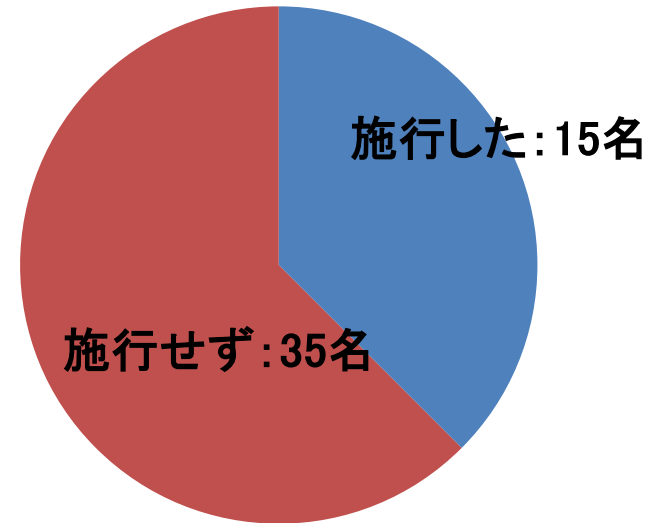


標準的がん治療について適応があり治療継続希望される場合、
治療病院と連携して診療を行う場合もあります。

経口摂取



補液施行状況

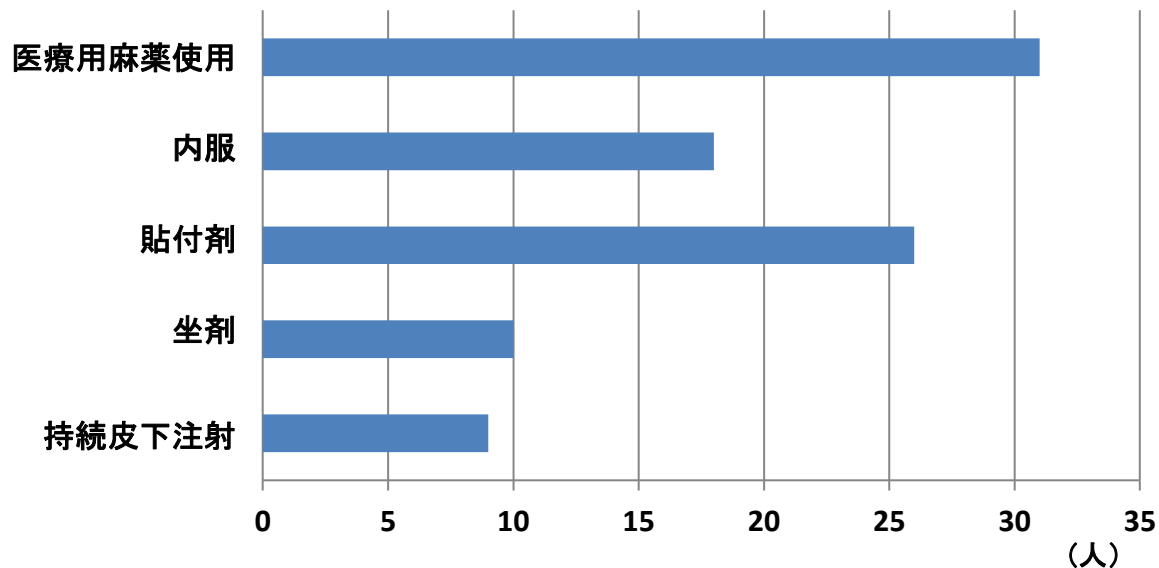


* 経鼻、経腸栄養施行: 1名

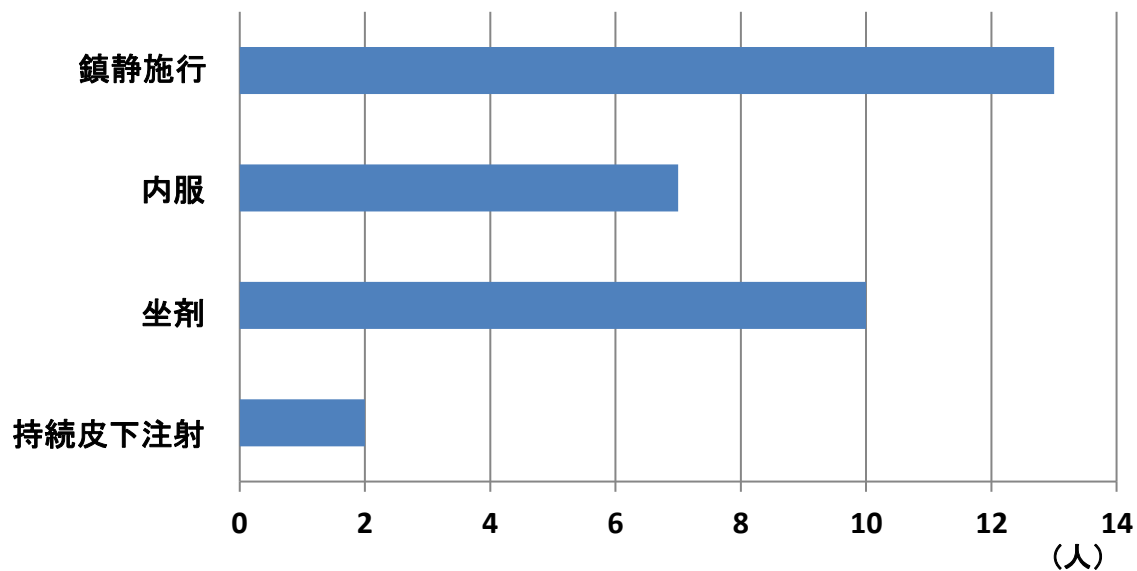
どの患者さんについても、なるべく何らかの形で食事がとれるよう工夫します。誤嚥のリスクが高い場合は、食事の形態の工夫、口腔ケアブラシに水分を含ませ口の中をぬぐうといった方法をとっています。

補液(点滴)を行った方が、患者さんがよりよく過ごせる場合、またご本人・ご家族から点滴希望があった場合、量ややり方に気を付けて行っています。

医療用麻薬使用の状況

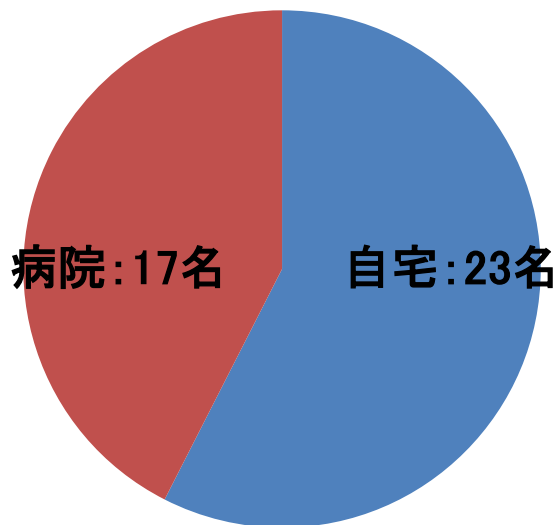


医療用麻薬使用の状況



患者さんがなるべく
痛みや息苦しさ、きつさから
開放され、
ご自宅で落ち着いて
過ごせるよう
医療用麻薬の使用や
鎮静も行っています。

看取りの場



なるべく自宅で過ごせる限りはご自宅という希望が多く、治療内容・看護内容・各種サービスの介入や工夫によって在宅療養をサポートしています。

いろいろな事情で入院される方がよりよく過ごせると判断される場合もあり、ご本人・ご家族と相談しながら在宅・入院を決めています。

入院に備え、あらかじめ緩和ケア面接を受けていただきいざというときにいつでも入院できるよう連携を図っています。